

登録コード	UAF04500	開講年度	2026				
授業題目	学習過程論演習				担当教員	安達 仁美	
					副担当		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・2時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
	2 4 U Aカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 4 U Aカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 3 U Aカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学						
	【研究科共通】量的・質的分析方法を身につけると同時に、各領域独特の解析手法を学習し、分析力を培うとともに、領域間における手法の差異を認識することにより、各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。				⇔	質的研究手法に関する知識・技能を備え、それらを活用できるようになる。	
	2 6 U Aカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 6 U Aカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 5 U Aカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 5 U Aカリ・総人社・心理長野・臨床心理学						
	【心理】心理学分野の高度な知識・技能を有する。				⇔	質的研究手法に関する高度な知識・技能を習得する。	
	【心理】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。				⇔	質的研究手法に関する知識の習得を通して、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を獲得する。	
	【心理】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。				⇔	質的研究手法に関する知識の習得を通して、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を獲得する。	
(2)授業の概要	質的心理学について解説し、文献レビューを通して質的分析に関して議論する。						
(3)授業計画	第1回：イントロダクション 第2回：質的心理学とは 第3回：多様な質的手法の実際 第4回：文献レビューとディスカッション（M－G T A） 第5回：文献レビューとディスカッション（T E A） 第6回：文献レビューとディスカッション（S C A T） 第7回：文献レビューとディスカッション（テキストマイニング） 第8回：文献レビューとディスカッション（相互作用分析） 第9回：文献レビューとディスカッション（エピソード記述） 第10回：文献レビューとディスカッション（語り合い法） 第11回：文献レビューとディスカッション（T A E） 第12回：文献レビューとディスカッション（ライフストーリー） 第13回：個人の研究課題に基づく課題設定に関する検討 第14回：個人の研究課題に基づく分析方法に関する検討 第15回：まとめ、授業アンケートの実施 ※第1回～第14回の順番や内容は受講者の問題関心によって適宜アレンジする						
(4)成績評価の方法	・授業のねらいの到達度を測るレポート（30%）および発表とディスカッションへの参加度（70%）により総合的に評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可						
(5)成績評価の基準	1)批判的な検討ができているか 2)問題点や課題を見いだしているか 3)結論が明確か 4)論理的に考察できているか 5)オリジナリティがあるか 上記の内、全てを満たしていれば「卓越している」、4項目を満たしていれば「かなり上にある」、3項目を満たしていれば「やや上にある」、2項目を満たしていれば「水準にある」。						
(6)事前事後学習の内容	授業前には、事前に配布する資料を読みこんで自分の意見をもって授業にのぞむこと。授業後には、授業を通して学んだ内容授業中に提示するテーマについて改めて考え、まとめること。この授業は90時間の学修を必要とする内容のため、60時間以上の時間外学習が必要となります。						
(7)履修上の注意	原則対面で実施するが、受講者の状況に応じて適宜オンラインを併用する。研究課題に対して疑問点などを整理しておくこと。常に自分なりの問題意識を持って授業にのぞみ、積極的に意見交流してほしい。						
(8)質問,相談への対応	・長野（教育）キャンパス 北校舎 N308 安達研究室 E-mail：adachi@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：メール予約で随時対応						
【教科書】	特に指定しない						
【参考書】	大谷尚（2019）『質的研究の考え方：研究方法論からSCATによる分析まで』名古屋大学出版会、(3850円) 能智正博他編『質的心理学辞典』新曜社、2018年（5184円）						